

いしづち

2025.1

JANUARY

No.162



公益社団法人 愛媛県建築士会

Ehime Society of Architects & Building Engineers

<http://www.ehime-shikai.com>



新年のご挨拶
年男・年女の抱負
Nextera(ネクステラ)

1	新年のご挨拶	愛媛県建築士会 会長 尾藤 淳一……①
2	年男・年女の抱負 まだ元気です もっともっと素敵に楽しくワクワク 今、この時を大切に 〇〇してから、三度目の… 感謝と健康第一 「縁」 旅行 年男の抱負 これまでの12年、これからの12年。 巳(実)りある1年に 人に支えられて感謝です これから12年の目標 これからも 令和7年「年男の抱負」 釣りを楽しむ アラサー 建築士会での活動	四国中央支部 寺尾 保仁……② 新居浜支部 合田晋一郎……② 新居浜支部 白石 公成……② 新居浜支部 政石 信行……② 今治支部 藤村 祐介……② 今治支部 渡辺 英雄……② 松山支部 須賀 禎昌……③ 松山支部 辻川晃太郎……③ 松山支部 永井 由起……③ 松山支部 西岡亜有美……③ 伊予支部 城戸 誠司……③ 大洲支部 毛利 政友……③ 八幡浜支部 井上 英之……④ 西予支部 千崎 清延……④ 西予支部 松本 正行……④ 宇和島支部 入川 祐司……④ 宇和島支部 二宮 正行……④
3	Nextera (ネクステラ)	道上壯/VuA……⑤
4	自分磨きへの道しるべ 建築パース制作基礎編2)	松山支部 尾崎 光高……⑦
5	世界建築紀行 エピローグ “旅への情熱”	西予支部 松山 清……⑨
6	委員会報告 第66回建築士会全国大会「鹿児島大会」に参加しました 総務企画委員会 委員長 井上 竜治……⑬ 第66回建築士会全国大会 鹿児島大会に参加して 賛助会員 八松硝子建材(株) 佐々木隆司……⑭ 第66回建築士会全国大会(鹿児島大会) 青年委員会担当セッション(地域実践活動報告会) 松山支部 近藤 岳志……⑮ 愛媛の有形文化財「源光山門手院 明石寺」 文化財・まちづくり委員会 委員 渡辺 建文……⑰ 建築市民講座 郡中まち探検ワークショップ! 文化財・まちづくり委員会 委員 眞田井良子……⑱ 令和6年度中四国ブロック若手建築志(士)交流会in愛媛報告 実行委員長 遠藤 彰騎……⑳ 青年委員会主催「支部対抗ソフトバレーボール大会」 優勝報告 松山支部 松山Aチーム 松平 定真……㉑ ソフトバレー大会の結果を振り返って 四国中央支部事務局 三好 宏享……㉒	
7	支部報告 建築士の日の行事「家づくり体験 建築模型づくり」 松山支部 青年・女性委員会 委員長 白石 学……㉓ 故郷の建築と防災を考える出張セミナー 松山支部 研修・技術委員長 相原 昌彦……㉔	
8	お知らせ 令和6年度 第5回理事会概要報告 事務局……㉕ 情報・広報委員会よりお知らせ 情報・広報委員会……㉖	

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



水彩、紙 サイズ/F4

題:「梅の子島砦跡」
(松山市指定記念物) 史跡

[表紙画について]

梅の子島砦跡は、陸月島の北東、芋子瀬戸に浮かぶ標高32m、周囲200m余の小島にあり、干潮時には歩いて渡れる。梅の子島砦は、中島の海の玄関ともいべき要所にあり、本山城・泰山城への見通しもきくことから、難攻不落の要塞であった。

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

- 1974 東京生まれ
- 1980 小学校から高校まで松山在住
- 1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
- 1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞(愛媛県建築士事務所協会主催)
- 1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
- 1996 日本工業大学建築学科 卒業
- 1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
- 2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」(新潮社)の装丁担当
- 2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)
- 2010 愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」收藏される
- 2015~17 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載
絵画教室やオリジナルブランド額工房「(株)リチエルカ」を設立
- 2017 「えひめの塗り絵」を出版
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。
現在、現代日本美術会 会員/審査員

新年のご挨拶

会長 尾藤 淳一



新年明けましておめでとうございます。

今年は、2025年です。21世紀になってから4分の1世紀が進んだこととなります。

今から100年前は、まだ大正時代です。日本社会は、徐々に力をつけてきて世界の一流国に肩を並べようとしていたところです。しかしその20年後、第2次世界大戦の敗戦によって軍国主義体制が崩壊し、国の方向性転換を余儀なくされました。新しい国づくりは限りなくゼロからのスタートでしたが、様々なものが法制度化されて、日本は画期的な経済の高度成長を成し遂げました。50年前のドラマでGメン75というのを覚えています。経済が成長していく中で、様々な歪みと戦う人間模様を描いた刑事ドラマだったように思います。

更に時は進みバブルが起り、人々はマネーゲームに浮かれ、日本人の倫理観が変容していったように感じます。私たちに関係あるところと言うと、姉齒の耐震偽造問題もこの頃です。これが25年前頃の話です。そんな日本人に天罰が下るように、阪神淡路大震災・東日本大震災などの大震災が起り、気候変動による風水害も毎年のように発生するようになりました。昨年は能登地方は震災と水害のダブル災害が発生したのは、記憶に新しい事です。

とにかく試練の25年間だったように思いますが、それでも苦難に立ち向かおうとする活動が発生していることは、誇らしいことです。災害ボランティア活動が目目され、各自治体で災害を想定した協定が結ばれています。私たち建築士も、職能をいかして貢献していきたいと思えます。

さて、今年はどうのような年になるのでしょうか？日本の政治体制が不安定な中で、1月には新しいアメリカの大統領トランプ氏が再就任します。アメリカの動向次第で日本経済は大きく揺らいでしまいますので、外交や金利政策など慎重に進めてほしいと思えます。ただ日本では参議院選挙がありますので、予期しない動きが出てくる可能性もあるので注意が必要であると思えます。

今年こそ人類がしなくてはならないことは、近年の世界各地で紛争や対立が先鋭化していますが、そ

の矛を収め、恒久的な平和を希求するような動きです。戦争で様々な技術が生まれるといったことはありますが、多くの犠牲が伴いますし、結果的に人類にとってマイナスでしかありません。それよりは平和な時代には、様々な文化が花開き、後世の人々にも有益な財産を残すことが出来るので、平和な社会を創り上げるべきだと思います。

話は変わります。私はこれまで建築士会の文化財・まちづくり委員会にかかわったことがなかったのですが、本年度ヘリテージマネージャー養成講座を受講しております。60時間の講座を受講するのは大変ですが、講座内容に学術的要素や歴史的背景など様々なメニューがあり、非常に有意義に感じております。受講して感じることは、日本は先の大戦で大敗しましたが、敵国であるアメリカが壊すには忍びない文化があると認めて、攻撃の対象から外したと言われる町や建造物があったということです。

そんな大切な文化があるのに、その価値観が忘れ去られようとしています。建築の専門家として知らないではいけないと思うようになりました。文化的建造物を残していくには様々なハードルがありますが、それを知っておくことは大切なことだと思います。わずかな受講料で有意義な内容があるので、受講しない手はないと思えます。来年度は開催されないとのことですが、未受講の方は次回開催されたときに、ぜひ受講を検討してみてください。

去年の建通新聞で、2025年度には建築士などの国家資格者証がスマートフォンで表示できるようになると書いてありました。運転免許証もそうなるらしいので、当然と言えば当然です。まずはマイナンバーに国家資格を紐づけ、それに基づいてスマホに表示することが出来るようになるということです。当面は紙の資格者証やカード型資格者証も有効でしょうが、いずれは切り替わっていくでしょう。これにより、国家は資格者の人数が把握できるようになり、いつかは定期講習など義務化されるかもしれませんが、守られるべきは消費者なので、受け入れていかなくてはならないと思えます。

最後になりますが、どうにも新年ご挨拶に似つかわしくないことを書いてしまったことは、お詫び申し上げます。本年も会員の皆様にとって有意義な活動をしていきたいと考えていますので、ご協力をお願い申し上げます。最後までご拝読頂きましてありがとうございます。

年男・年女の抱負

年男・年女

2

まだ元気です

四国中央支部 寺尾 保仁

今年は 巳年 そんな年齢になりました。世間では寿命は親に似ると言われます。私の父は75歳で亡くなりましたので私もその位かなと思い、後3年位とっておりました。その歳までには「何をどうしたい、後何年でこれをやっておきたいと」以前は思っておりましたが、だんだんその歳に近づいてくると、何もできていないと気づきます。と言うか、母親は92歳でしたのでまだ20年あります。母の年までを目標にもう一度頑張りたいと思います。このような私ですが、温かくお見守り下さい。

もっともっと素敵に楽しくワクワク

新居浜支部 合田 晋一郎

今年還暦を迎える年男です!還暦は人生を振り返り、新たなスタートを切る特別な年といわれています。また、年男は年神様のご加護を受け、縁起も良いとされています。私はまち歩きが趣味ですが、神社を見かけたら普段以上に参拝し、神様のご加護をたくさんいただきたいと思っています。昨年末に新居浜市は「新しいにいほま」というビジョンを掲げる新市長を迎えました。私も素敵で楽しくワクワクする未来図の実現に向けて、新たなスタートを切りたいと思っています。積極的に努力し、新居浜の未来を創るために頑張っていきます。

今、この時を大切に

新居浜支部 白石 公成

建築の仕事について約50年が経ち、建築士としての活動、地域での活動、その他のボランティア活動等を継続することで、様々な立場の人との出会いや、かけがえない経験をさせてもらいました。自分自身の気持ちの持ちよう生き様を変えることができ、面倒くさいと思うことをすることによって、自分自身の成長につながりました。振り返ると、高価なものよりも思い出が大切な心の財産で、現在は健康に勝る財産は有りません。

これからも家族を大切に、仕事にも遊びにも、好奇心をもって、楽しく人生を過ごしたいと思っています。

〇〇してから、三度目の……

新居浜支部 政石 信行

前回、この年男の記事を書いたから、12年経ったようです。あつという間でしたが、振り返ってみると、職場、資格等含め、大きく変化した12年でした。

大学を卒業してから、三度目の年男です。これから次の12年。人生が、思った通りにかなえられてく…か?解りませんが、何年経っても、変わらぬ笑顔で、過ごしてゆけたら良いなと感じています。

感謝と健康第一

今治支部 藤村 祐介

新年あけましておめでとうございます。

今年で4度目の年男を迎えることとなります。高校時代に建築の仕事を目指し、大学へと進み、建築業界に入ってから、早くも24年が経ちました。私の人生の半分を建築と関わっていたこととなります。職人さんとの建築用語なども理解していなかった新卒のころから今日まで沢山の人の支えられ、中堅の現在でも業界に携わることができることに感謝しております。

年男ですし、これからは感謝の気持ちにプラスして、自分の健康第一も大切にしつつ、建築の仕事に真摯に向き合っていきたいと思えます。

「縁」

今治支部 渡辺 英雄

新年あけましておめでとうございます。

私は、日々現場監督として様々な業種、様々な年代の方々と共に仕事をし、子供たちも無事に成人を迎えられるようにと、公私ともに充実した日々を送ることができました。これからも人との縁を大切にしながら、謙虚に仕事と向き合い家庭との両立を頑張っていきたいと思っていますので、今年も引き続きよろしくお願ひします。

年男・年女の抱負

旅行

松山支部 須賀 禎昌

2025年は「乙」と「巳」を組み合わせた「乙巳」に当たり、これからの成長をさらに安定したものへと育てていく年だと聞いています。

私はすでに6回目の年男で今は終活かな？

家内と全国色々な所を旅行に行きたいと考え、去年は北海道の「有珠山」・東北地方は出羽三山の一つ「月山」に登り健康管理しています、これからも松山から遠い地方に出向いて体が動く間に全県を回りたいですねえ～。

縁起担いで皆さんの願い事が「巳(実)」を結ぶ年になると願っています。

年男の抱負

松山支部 辻川 晃太郎

24歳から気づけば12年も経っていて、あっというまの12年だったなと思います。24歳のときに、地元工務店で働き始め、退職し、後継者として今の会社に入社し、現在では会社の代表を務めております。家庭では、24歳から交際していた女性と28歳で入籍し、今では3児の父です。次の年男までに、設計事務所設立、不動産会社設立、行列のできるラーメン店をオープンさせ、辻川ホールディングスを立ち上げます!!

これまでの12年、これからの12年。

松山支部 永井 由起

建築士会に入会して1年と少し経った頃、初めての「いしづち」の原稿依頼が12年前のこの年男、年女だったと思います。丁度その頃に松山支部の東・南地区で始まった「建築士による防災講座」が、昨年の全国大会の発表で優秀賞を頂きました。最初は地区の有志の活動だったものが、今では松山支部を超えて県内の他の支部、周囲の県にも広がっています。

今年度から女性委員会委員長をお引き受けしてしまいました。入会した頃はほとんど知り合いもなかったのですが、今、たくさんの方のご協力でいろいろな経験、多

くの学びを頂いています。

この先の12年は、これまでお世話になった方々に恩返しができるよう、これからの世の中に良いものを残せるよう、初心を忘れずに努力を続けたいと思います。

巳(実)りある1年に

松山支部 西岡 亜有美

皆様、明けましておめでとうございます。3回目の年女。実際の蛇さんはどうしても苦手意識が拭えない存在ですが、巳年は実と掛けて「実を結ぶ年」とも言われるそうです。自身の節目の年としても、実りある充実した1年となるよう、精進してまいりたいと思います。

人に支えられて感謝です

伊予支部 城戸 誠司

還暦60歳、建築業界で40年多くの皆さんに支えられて今に至ります、出会った方すべてに心から感謝です。2年前に長年勤めた会社から転職しても、早々と雰囲気馴染み仕事に邁進出来るのも、指導を受けてきた諸先輩方のおかげとしみじみ感じます。現在の職場は我が娘より年下の部下ばかりですが、仕事に励み日々成長する姿は誇らしく頼もしいと感じながら仕事を行っています。人の成長も支えながら、今年も前向きに突き進もう。

これから12年の目標

大洲支部 毛利 政友

新年あけましておめでとうございます。これまでの12年間を振り返ると、家庭を持ち家族が増え、新居の設計から工事完成まで携わるなど、歩みは遅いものの大きな変化がありました。そのような中で孫達を抱え笑顔で過ごす私の親達を見ると、将来の自分もこうありたいと思いました。

とはいえ私も48歳が目の前です。小さい子ども達のためにもまずは健康を第一に、そして定年延長を追いかけながら建築の世界に関わっていければと思います。今後ともよろしく願いいたします。

これから

八幡浜支部 井上 英之

最近正確な年齢をすぐに答えられなくなったところにこの依頼が来まして、改めて年男になることを気付かされました。気持ちは20代の頃からあまり変わった実感はないのですが、仕事や私生活はやはり大分変化したなと思います。これから周りの方々に感謝し、欲を言えばもう少し気持ちに余裕を持って過ごせられたらと思う今日この頃です。

令和7年「年男の抱負」

西予支部 千崎 清延

新年あけましておめでとうございます。

よいお年を迎えられた事とお慶び申し上げます。

令和7年は、6回目の「年男」になります。(古希を過ぎ、高齢者の仲間入り?) 8年程前から、休日を利用して自転車で四国八十八ヶ所霊場巡礼をしていたのですが、昨年八十八番の大窪寺によやく参拝する事が出来て納経帳に御朱印して頂き念願の結願です。

本年の目標は、和歌山高野山を訪れ御大師様へ無事八十八ヶ所参りが出来た事を報告して、建築の業務に励みたいと思います。

釣りを楽しむ

西予支部 松本 正行

16歳で入社、大工一筋31年となりました。全体の仕事の流れが分かるまでに10年、現場を任されること、やりがいと楽しさを感じるとともに責任の重さを実感しています。今まで大工を継続してきた事が自分の財産となっているように思います。

休日には海に向かい趣味の釣りを楽しみます。見えない海の中の魚たちと想像力で格闘しながらリフレッシュをしています。

本年も充実した一年を迎えたいと思います。

アラサー

宇和島支部 入川 祐司

新年あけましておめでとうございます。長女が生まれた年に建築士の仲間入りをし、すぐ当時支部の青年部長だった吉行さんに建築士会・青年部活動『飲み会だから!』と手招きをされもう30年(当然長女も30歳…余計な事を書くなって怒られそうですが…) おかげさまで色々な『活動』に参加させていただきました。またそうこうしている間に2人目3人目と生まれ、3人目が今年大学卒業で親の務めは一段落。と思ったらもう還暦、さあどうしよう一休み?と思いき周りを見渡すと諸先輩方のお元なこと。

まだまだ土会アラサーは若輩者?負けずにがんばろー。

建築士会での活動

宇和島支部 二宮 正行

12年前に年男として原稿を書いて、はや12年が経過しました。この間にも、建築士会の様々な事業や大会に参加し、たくさんの仲間とともに活動することができました。中でも、子供たちに建築の楽しさを知ってもらうための事業が印象的です。小学生に木工作を教えたり、中高生と一緒に橋を作ったり、現場を見学に行ったり。その子供たちが成長したときに、将来、一緒に仕事ができれば良いな、と考えています。



「Nextera (ネクステラ)」という造語がある。「next」は「次の」、「era」は「時代」。「次の時代」を意味する言葉だ。

世の中の全てのことは、良くも悪くも次へと進んでゆく。少しずつ移り変わるものもあれば、一気に変わるものもある。いずれにしても、ある時に振り返ってみると、時代が大きく変わっていることに気づく。建築もしかり。建築には二つのフェーズがある。「考える」というフェーズと「つくる」というフェーズだ。これら二つについて「Nextera」を妄想してみたい。

建築を「考える」。これには二つの方法がある。まず一つ目は、人間が考えるという方法だ。二つ目は、AI(人工知能)が考えるという方法だ。AIが考えたものを人間がアレンジする場合は、後者に含まれる。

人間が考える方法は、太古から繰り返行われていた。頭の中で考えたことを、紙の上や画面上に見える化するという方法だ。いきなり模型をつくるという方法もあるが、頭の中のイメージを手を使って形にするという意味では、二次元化も三次元化もそう変わりはない。表現するためのツールよりも、人間の発想力が大切になってくる。このやり方はそう大きく変わることはない。

AI(人工知能)が考える方法は、これから発展してゆく。学習させたAIに文章を打ち込んだり音声を入力することで、図面やパースや3Dプリンターによる模型をつくるという方法だ。図面や画像を入力して、類似的なものをより具体的につくるという方法もあるが、AIに入力・出力するという意味では、インプット情報の種類はそう問題ではない。AIの学習内容やアルゴリズムの構成やニューラルネットワークのモデルが、建築の質を大きく左右することになる。人間の個体差の違いが建築の違いになるように、AIの違いが建築の違いになってくる。

AIを使う方法は、その舵取りも大切になってくる。操作する人間のスキルも影響してくるということだ。例えばバイクレース。同じマシンでも、操るライダーによってサーキットの周回タイムは変わってくる。例えばグラフィックデザイン。同じイラストレーターを使っても、デザイナーによって生み出されてくるデザインは変わってくる。



考える

次の時代は、人間とAIとの融合がポイントになるだろう。入力も、文章から音声へ、音声から脳波へと変わってゆくだろう。文章も音声も実はデジタル情報で、その行間や音間の情報は抜け落ちていく。途切れないアナログ情報である頭の中を、もれなく伝える一番の方法は、脳波をそのままAIに入力することだ。AIが脳波から全ての情報を読み取り、文章や音声にできない情報から、何か新鮮さに繋がるヒントを掘り取るのではないかと考えている。もうすでに、脳波だけで戦闘機を操縦する技術は確立されている。建築を考えるバイオメカノイド化は、もうそこまで来ている。

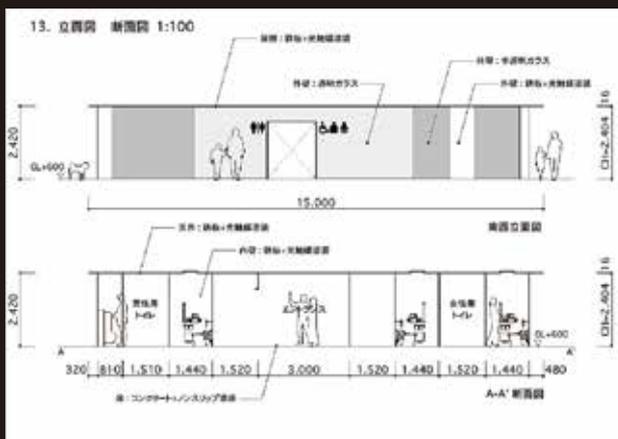
ネクステラ

建築を「つくる」。これには二つの方向性がある。まず一つ目は、新しい構造や素材が登場する場合だ。二つ目は、地球の重力とは異なった環境で建築をつくる場合だ。

近代建築以降、新しい構造や素材は幾つか登場しているが、歴史様式を近代建築へと変革させたほどの、インパクトのある構造や素材は登場していない。例えば、大規模高層建築の柱が100mm角で15mの跨度が成立すれば、建築の内部空間は随分と変わってくるだろう。スラブに梁が不要でスラブ厚が30mmで成立すれば、建築の外観は随分と変わってくるだろう。構造の変革は、建築を新しい時代へと導く強力なファクターの一つだ。



仮想現実の建築は、Nexteraからは外してある。僕が妄想したいのは、現実の世界の建築が、次の時代にどんな風になるのかに興味があるからだ。一番の可能性は、新構造体の登場によりこれまでの構造の概念を超えた建築が登場することだ。具体的にはよく分からないが、構造体が今までよりも小さく薄く軽く、そして丈夫になるだろう。全部木でつくられた大八車から、オールアルミ・モノコックボディのスポーツカーぐらいの様変わりをするだろう。



Toilet.YC Structure

地球の重力とは異なった環境は幾つかある。一つは宇宙空間だ。例えば、無重力状態になると上下左右がなくなり、床や壁や天井という概念がなくなる。また、荷重がゼロになるので柱や梁の概念もなくなる。全てが薄い板で構成できて、平である必要もない。僕たちが当たり前のように考えてきた構造の概念が、全く存在しない世界になる。そんな環境下での建築は、今までと全く違ったものになる。

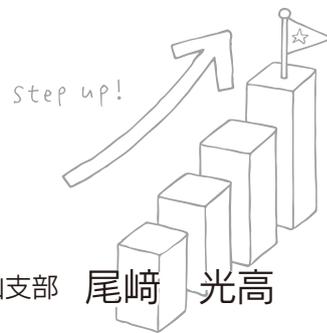
もう一つは深海のように極度に圧力が掛かったり、木星の表面近くのように極端に重力が高かったりする場合だ。頑丈な柱、分厚い壁、小さな窓。建築としては成立するが、わざわざこの過酷な環境下でつくる必要がないので、可能性はほぼ無いに等しいだろう。

ピラミッドの時代から建築が発展して、鉄とガラスとコンクリートによる近代建築になるまでに4500年掛かっている。その10倍のスピードで建築技術が発展したとしても、次の時代までに450年掛かる。近代建築が変わってほぼ100年経っているが、まだあと350年もある。産業革命に触発された近代建築のような激変は、まだまだ先のこともかもしれない。

余談だが、僕が最もNexteraに近づいた建築は、トイレのコンペ案だ。床はコンクリート。壁は鉄とガラス。屋根も鉄。コンクリートは床の表面が見えるだけ。鉄とガラスの厚さは共に16mmで薄い板状。構造体を感じさせない佇まい。きっとNexteraは、こんな佇まいが積層して大規模化したものになるのでは？年寄りの戯言の妄想は、まだまだ続くのである。

建築パース制作基礎編2)

2点透視図法



松山支部 尾崎 光高

今回のこの2点透視図法が一番使われていると思いますので、まず基本的な描き方をご紹介しますので、まず基本的な描き方をご紹介します。

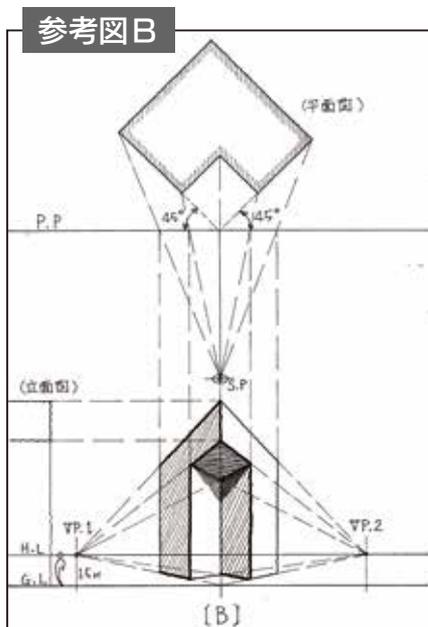
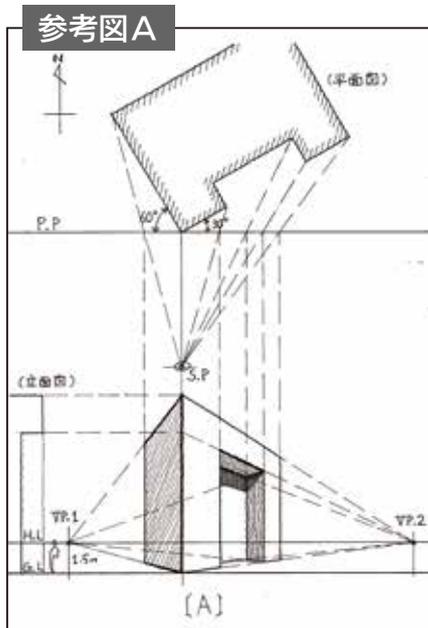
参考図内共通用語解説

- PP** ピクチャーライン（画面）です。平面図が接しているのので、この位置が実際の建築物の高さとなります。
- SP** スタンディングポイント（人の立ち位置）です。カメラ、スマホで撮影する時の自分の立ち位置、あるいは建築物を見ている位置となります。
- VP** パーニングポイント（焦点又は消失点）です。人が見ている位置と覚えて下さい。
- HL** ホリゾンタルライン（目の高さ）です。このVPとHLは1点透視図の場合、同じ位置となります。1か所しかないのが1点透視図と呼ばれています。これらは各技法とも同じです。

参考図Aですが、建物形状は前回の1点透視図法と同じとしました。違う所はPPに対して60°と30°の角度で配置した点です。この角度が基本ですが、慣れてくると色々を変えて頂いて構いません。(CGの場合は入力後に360°グルグルと回せるようになっていきますね。)下にGLとHLを設定します。立面図は横に貼り付けて高さを移せるように用意して下さい。次にSPをPPと建物の角の接点(このラインが高さの基準となります)から任意の距離で取り、建物の各点から補助線で結びPPとの交点からGLに下していきます。そして、HL上にVP1, 2を両側に任意の距離で設定します。SPラインに立面図からの高さを移してVP1, 2と補助線で結び、PPからの補助線との交点を出して型取れば完成です。今回は影を付けてみました。パースの場合は影を付けることにより立体感を強調出来ますので重要な要素です。

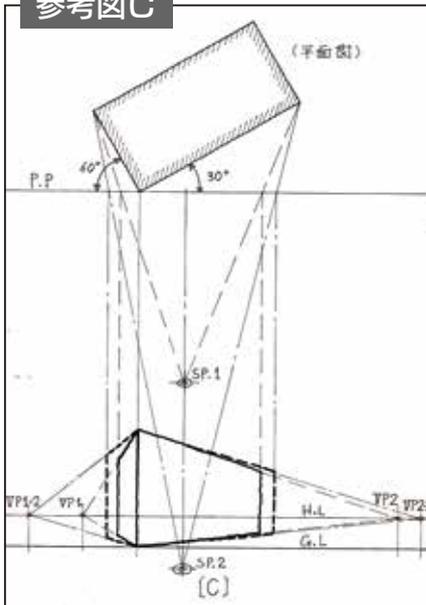
この図は東に太陽がある設定です。CGでは太陽高度も自由に設定出来ますので便利です。ただ、実際の影をそのまま表現してしまうと影だらけになり、形が分かりづらくなりますので調整が必要です。建物の影がどんなになっているかも研究してみてください。設計手法としてデザイン上、影を上手く利用するのも良いですね。最近建っているマンションは彫刻的な複雑なものも見受けられます。公共建築等も傾向が変わってきていますね。皆さん色々工夫されているようです。身近な建物にも関心を持ちましょう。

参考図Bは建物配置を45°ずつとした例です。角がセットバックした場合ですが、描き方順はAと同じことの繰り返しです。1番目に外側の形を出してから2番目に内側のセットバック部分を描くようにすると混乱しないかと思います。この繰り返しで複雑な建物も作成出来ますので、まずは練習してみてください。こちらも影を付けました。中心より少し右よりの太陽位置とし、セットバック上部は出っ張っていますので影を付けて強調しました。これだけでアピール度が増しますね。



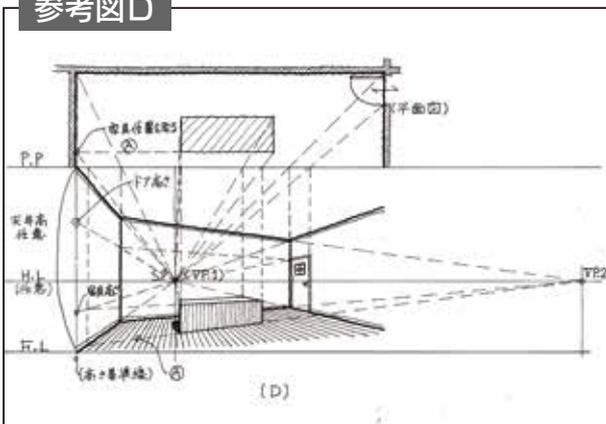
▲ 2点透視参考例外観 (自由学園 F・L・ライト) (東京)

参考図C



参考図Cは建物の大きさ等の調整方法を示した図です。角度は60°、30°とし、SP1とSP2の距離を変えました。SPを遠避けると建物の中が広がりますので、この距離の設定で調整出来ます。次にVP1、VP2の距離を横に長く取ると建物の角度が緩やかになります。後は建物の右、左の壁面の割合を調整する方法として30°を20°とかにしていくと右壁面が多く見え、左面は少なく見えてきます。このいずれかの方法により一番かっこいいアングル選びをしていきます。前回、下図の段階で8割方出来栄が決まるとお伝えしましたが一番重要な所です。昔は製図板とT定規で下図を描いていましたが、1回出来上がってみるとかっこ悪いので、又2回目を描き直したりして時間を無駄に使っておりました。それに懲りて、まず最初に図面を見てどの方向から描けばかっこ良いか建物が生きるかを簡単にスケッチで描き、それに基づいて角度等調整して下図を描くようにしました。最近ではCADで作成したものを下図にして手描きパースを描くか、比率を利用して下図を作成するようにして時短に努めております。

参考図D



参考図Dは室内パースの作成方法です。描き方は外観と似たような方法を考えてみました。①PP線に平行に平面図を配置し下にFL, HLを設定します。②HL上にSP (VP1も同じ位置)とVP2を設定します。③SPと室内角、ドア、家具の各点を補助線で結びます。PPとの交点からFLに下します。これらが各壁等の位置となります。④左側壁線が高さ基準線となる為、FLの交点とVP1とを補助線で結び、PPラインを天井として交点とVP1を補助線で結びます。これが壁上下の位置を表します。⑤左側壁奥の縦ラインとの交点を出示すと、これが左壁奥の角位置となります。⑥⑥番で出来た壁の上、下の交点とVP.2とを補助線で結びます。⑦右側壁縦ラインとの交点が右壁奥の角となります。⑧右、左角の交点を結べば奥の壁面が出来ます。⑨今度はこの壁の上、下の交点とVP1を補助線で結び、延長すれば右側の壁面が出来ます。⑩家具の位置は左壁に位置線をし、VP1との補助線とPPの交点をFLに下して壁下線との交点とVP2を補助線で結べば家具の位置が決まります。⑪ドア高さ、家具高さも高さ基準線から移していきます。ちょっと作業がややこしくなりますが、何回か練習すれば理解して頂けるかと思えます。こちら家具左側床面に影を付けてみました。室内パースでも影の役割が重要となります。より臨場感が出てきますね。

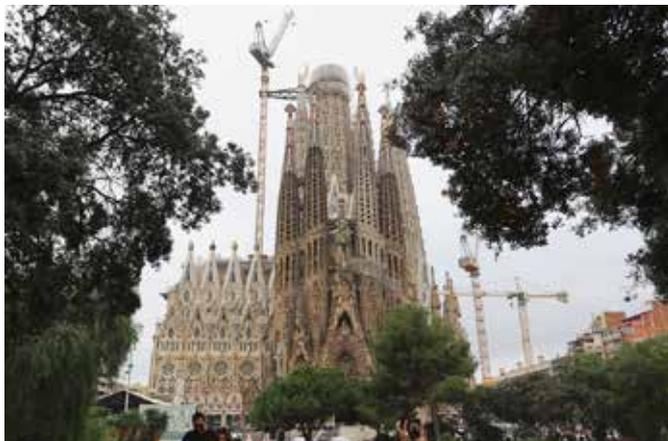
尚、室内パースの作成方法については、YouTubeなどで様々な手法が紹介されていますので参考にして下さい。

前回の繰り返しになりますが、実例の観察をすることにより立体感、建物の性格、重厚感、空間バランスの把握等が会得出来るとパース制作、また設計に役立ちます。住宅ですと、和風、洋風、和洋折衷等様々な種類があり、それらを表現する為にはそれぞれを理解する必要があります。

次回は3点透視図法についてご紹介します。尚、建築士会HPよりカラー版が閲覧できますので是非ご覧ください。宜しくお願い致します。



▲ 2点透視参考例) 内観 桂離宮 (京都)



▲ 2024年11月のサグラダファミリア

1 世界の建築が語りかける

「芸術を追究すると建築になる」とはル・コルビュジエの言葉だが、それはガウディがバルセロナで残した建築作品を見ていると、その言葉が重なって私には見えてくる。「世界の建築の中でどれが一番見てみたいか？」と質問されたら「サグラダファミリアを見てみたい」と答える人が一番多いのではないだろうか。

100年以上も建築が続けられている天才建築家ガウディの傑作“サグラダファミリア”を見に行きたいと長年思っていたものの、バルセロナまで行くには費用もかかるし、時間もないと諦めていた。50代になって近所の幼なじみが、ANAの新規就航路線がブリュッセルに開設されるので、それにマイレージを使えば無料でバルセロナまで行くことができそうだと言い出した。彼はコナイティッド航空のマイレージを貯めていて、それでANAのビジネスクラスの特典航空券が取れるらしい。その頃、私は日本百名山完登を目指していたので、北海道や東北の山へ登るためにANAマイルが少なからず溜まっていたことで、二人でのバルセロナへ行き実現が旅の始まりであった。それ以来、ANAのマイルをためて安く海外へ行くことに熱心に取り組んだ。

2 旅のヒント

旅を長く続けることができた理由を今振り返ってみると、私の場合、次の4つをあげることができる。それは、①なるべくお金をかけずに節約して安く行く、②

ANAマイレージクラブ上級会員になる、③旅を楽しむ、④情熱と目標を持ち続けるということだ。そもそも海外旅行というと時間と金がかかる、という先入観があり、高嶺の花のように思い込んで一度行けばあと10年は行けないな、というくらいに思っていた。その概念を払拭し、具体的にもっと旅が身近になるヒントがあった。

① 節約して安く行く…特典航空券の利用

特典航空券というのはANAマイルで交換できる無料の航空券のことだ。以前は追加料金なしだったが、コロナ前に空港利用税と燃油サーチャージは別途負担することが必要となったので、令和6年後半に欧米に行く場合は数万円の負担となる。しかし、有償の航空券と比べると格段に安い金額で飛行機に乗ることができる優れものなのだ。コロナ後は旅行ブームが海外で続き、円安のため日本の航空券が安く感じられるため、ANAやJALは人気があって外国人旅行者が増加し満席の便も多い。一方、日本人にとっては旅行代が跳ね上がり、さらに物価高もあって海外を旅しにくい状況が続いている。

このような中でマイレージは救世主でもあり、松山からソウルまでは15,000マイルで行くことができる。北京までは数年前だが20,000マイルで行くことができた。1マイルは相場場で2円なので、北京まで往復4万円相当ということになる。マイレージの面白いのはエリア制の料金設定となっていて、北京であろうと西の果てのウルムチやカシュガルまでも同じマイル数で行くことができる。そんな仕組みを利用して新疆ウイグル自治区を旅したこともあったが、4万円相当ではあるが貯めてきたマイルを使うのでそんなに遠くまで



▲ 安宿のあるビル

行っても飛行機代は格安で終わらせることができたのだ。

それではマイルを貯めるにはどうすればいいか、なのだが、具体的な方法がネット上に数多公開されていて私もかなり参考にさせてもらったので、元祖を紹介すると、“ANAとマイルのパパじゃない”というブログが参考になるポイントが多いが、自分に合ったものを見つけることが大切だろう。



▲優先搭乗のボード

一方、ホテル代については、バルセロナの例では“安宿”の経験をした。世界中日本人向けの“安宿”というのが各都市にあって、そこは日本人しか泊まらないし、食事なしで1泊¥5,800の料金だった。とても便利な中心部にあるが、古い街並みの外壁を残しておかなければならないエリアだったので、ホテルという感じではなく、古いビルの中の一般住宅に部屋が8つ程あり、それぞれにベッドとシャワー・トイレが設置してある簡易なものだ。何とか何泊か宿泊できるかなというようなものだった。イッテQで3,000円程度のホテル探しなどやっているが、それくらいのもと思えばいいくらい。そんな質素なところにどんな人が宿泊に来るかという、一人旅の医者とか上場企業のサラリーマン、キンキラキンのお嬢様など不思議な人たちが集まっていて情報交換をしている。朝食は外に出ればカフェがあるし、夕食はレストランへ行った。そんな旅もあるんだな、と思ったがこれだと確実に安く上がるのは間違いない。

また、食事についてはいつも苦勞するが、もう海外には旨い食事は期待しないことにしたので、4泊すれば半分の2泊は日本から持参したカップラーメンで済ませると割り切る。ポットもいつも持参する。その方が安心できるからだ。人によっては何でも旨い旨いと言いながら食べられる人もいて羨ましいが、自分の場合、この食料は何だろうとか、この料理は食べて大丈夫だろうかなどと神経質になるため、悩みの種なのだ。またアメリカでは朝食を軽く食べただけでも1万円近くになることもあり、ちょっと信じられない。思っていた金額にサービス料20%さらにチップ20%などが

加算され、料金が跳ね上がる。そのためテイクアウトを利用する人も多く見かけた。

② 上級会員になる

マイルを利用すると飛行機代のコストが10分の1くらいになるような感覚なのでとてもわかりやすいが、それに付随してANAの場合プレミアムポイント(PP)が付けられる。このPPによって航空会社は乗客を格付けしていて、ダイヤモンド(D)、プラチナ(P)、スーパーフライヤーズ(SFC)、ブロンズ(B)、その他大勢という5ランクに私たちは区分されている。飛行機への搭乗順序もDメンバーからとなっている。搭乗口でそのステータスによりGroup 1, 2, 3, 4と分けられ、Group 1, 2で優先搭乗できる人が上級会員と呼ばれる。ただし国内線の場合、プレミアムクラスを予約した乗客もGroup 2となる。一度プラチナを獲得すればスーパーフライヤーズSFCに申し込むことができ、SFCは永久会員となるため優先搭乗やラウンジの利用、預け入れ手荷物の優先返却など多くのサービスを一生受けることができる。そのため多くの人がSFCを目指してANAに搭乗する、というのが狙いである。

特に羽田空港3階のラウンジ利用と海外旅行の場合のスターアライアンスゴールドメンバーとしてのラウンジ利用は大きな利用価値がある。そして、羽田空港にはさらに4階のラグジュアリーなスイートルラウンジがあって、日本中のビジネスマン出張族の憧れの的なのだ。JALにも同様の仕組みがあるが、松山空港の場合はANAの輸送量が大きいためANAで上級会員を目指すのが王道だろう。ちなみに、ANA上級会員は青組、JAL上級会員は赤組とSNSの世界では呼ばれている。

そのような上級会員になるためには、PPを1年間に5万ポイント一度だけ貯める必要があり、それを目指す人をオタクは“修行僧”と呼ぶ。永久資格なので目指す人は多いが、さらに年間10万PPを獲得してダイヤモンドメンバーを維持する人も身の回りに数人いるが、全く無駄な労力でもある。

優先搭乗以外のメリットも数多くあるが、その例を挙げると、預け入れ手荷物はD、P、SFCの順番で出てきたり、座席のアップグレードも申し込み順ではなくステータス順ということになっている。今では不思議でならないファーストクラスでの普通の夫婦でのニューヨークへの旅などもできたり、よく主婦がマイルを貯めてファーストクラスでパリに行ったなどという旅行記を“4 Travel”で見かけるが、それは念じれば花開く、なのかもしれない。

また、上級会員になると搭乗待合の際にラウンジを利用することができるが、松山空港の場合、セキュリティチェックを受けて待合室に出ると、右突き当たりがANAラウンジ、左突き当たりがJALさくらラウ



▲羽田空港ラウンジ入口

ラウンジとなっていて、ビジネスマン等にとっては安らぎの場なのだ。羽田空港は2階が一般出発ロビーだが上級会員は3階のラウンジへ入室でき、さらにDメンバーは4階のスイートルラウンジへ入室できる。SFCの頃は4階にはどんな世界が広がっているのか気になって仕方なかったのだが、ここ最近スイートルラウンジで寛ぐことができるのでストレスが貯まらずに済む。同行者一名は入室可能なので同伴されることにより中の様子を知ることできる。国際線では食事やアルコール類の提供も充実しており、シャワーも利用可能なので夜行便に搭乗する場合などには利用価値が高い。

③ 旅を楽しむ

今から20年程前のことだが、ボーイング787が国際線に導入された頃の話である。国際線のことなどズブの素人で、ルールもあまり知らない私は、フランクフルトまでのエコノミークラスでのフライトを楽しみにしていた。羽田空港第3ターミナル110番搭乗口からの機内への案内だったので、待合ロビーで搭乗開始を待つ。辺りを見回してみると100人少々の人しかおらず、300人程は乗れる大型機なので、これはゆったりとした空旅となるかと期待していた。ところが搭乗時刻になるとどこからともなく人が現れて列を作り、優先搭乗で乗り込んでいく。結構な



▲スイートルラウンジ



▲シャワールーム

人数が搭乗した後、行列を作っていた私たちは機内へ進むことが出来た。機内では先に乗った人たちが前方から5分の4程のスペースを占めるゆったりとしたビジネスクラスで荷物の整理などとしていて、後から乗った私たちは最後尾の5分の1くらいの狭いスペースに空席がない状態でギュウギュウ詰めだった。安くはない旅行代金だったので少しは良いことがあるかと思っていたのに失望、というかショックだった。世の中にこのような区別があるのだと理解できた。後でビジネスクラスにした場合の搭乗券の金額を聞くと100万円近くもするとわかり、これは自分が乗れる席ではないなとその時思い認識したのだった。

バルセロナへ初めてビジネスクラスで行ったのはその数年後なので、ゆったりとした空旅がワクワクするような気持ちで期待も大きかったし、それに十分応えてくれるものだった。ビジネスクラス（Cクラス）とエコノミークラス（Yクラス）ではこんなにも違いがあるのかと思い知った。そして今後はCクラスで旅をする努力をしようと思心に誓ったのだった。ただし、お金を使って乗るのではなくマイレージを利用してという条件が付くのだが。

お金をかけずにCクラスに乗るには、特典航空券をゲットするか、Yクラスの搭乗券を購入してアップグレードをするかの二択となり、いずれかを組み合わせると実際は旅に出る。特典航空券の場合、空席があれば良いが、大抵は埋まっていて自分が行きたい日に空席はない。355日前に申し込みれば取れるのだろうが、そのような計画は極めて難しいと言える。そのため、ANAのHPと睨めっこしながら空いている日を探すということになる。自分の思い通りにはならなくても、以外と空席が見つかるものだ。そこらはテクニックなので、何度も挑戦して研究しなければならないだろう。これは早い者勝ち。

一方、アップグレードでYクラスの切符でCクラスに乗るには運もあるが、ノウハウによるところが大きい。経験上Cクラスには必ずと言っていい程空

席があり、その席はYやプレミアムエコノミーの下位クラスからお得意様の乗客を変更により乗せてくれるという仕組みがある。これをアップグレードと呼ぶのだが、そこには争いもある。フランクフルトやNYなどの人気路線には空きが2席くらいしかないのでアップグレード希望者が30人程もいることがあるのだ。競争がない場合は問題ないが、厳しい競争率となった時にANAは誰をCクラスに乗せるのか。それは申込が早い人ではなく、Dメンバーなのだ。そのため海外の旅をCクラスで楽に、しかも安くしたいのであればDメンバーである必要がある。または、Dメンバーであれば有利ということになる。SFCは永久会員だが、Dメンバーは1年限りなのでそれを継続するためには10万PPを獲得するためにせつせと飛行機に乗らなければならないという航空会社の無限ループの罠に入っていくことになる。それを不可能と諦めるか、楽しみと思ってSNSなどで情報収集して挑戦するかはその人次第なのかもしれない。これは知らない方が良かったことでもあった。

④ 目標と情熱を持ち続ける

世界の建築の中でも、私は特にル・コルビュジエのサヴォア邸・ロンシャン礼拝堂、ミース・ファンデル・ローエのファンズワース邸、フランク・ロイド・ライトの落水荘、デッサウのバウハウスを見てみたかったので、大きな目標として心の中に若い頃から思っていた。しかし、実際に行けるとも思っていなかったが、そのような心の灯火があったので小さなチャンスを作り出すことが出来たのだ。もしそのような建築作品に興味を持っていなかったら、旅に出ようという発想も思い浮かばなかったかもしれない。

海外への旅は仕事や時間のやり繰り、資金計画、周りの目や反対など課題は山積みの冒険だ。それを乗り越えて実現するには、目的地の歴史や文化、政治や社会などを深く理解し、その知識と情熱も持たなければならない。ただ上げ膳据え膳で行くのではなく、現地の人と同じレベルで様々な学びを求めないと行く価値が半減してしまう。だから事前の情報収集はとても大切だし、現地でも自分の力で行動することにより大きな成果も得られる。私の場合、「建築に歴史は宿る」という信念がここまで自分を行動させたのだらうと思っている。

③ 飛行機への興味

幼い頃、私が過ごした西予市は飛行機とは全く縁がなく、殆ど乗ることもなかった。飛行機の音がすれば空を見上げていることが常で、遙か上空を飛ぶ

飛行機に憧れてもいた。そのせいもあって飛行機で旅をすることが好きで、北海道や沖縄も数多く訪ねた。根本的に乗り物が好きだったのかもしれない。

日本百名山は2019年に完登を果たしたが、その前にはパラグライダーを15年程やっていて、日本全国の空を飛び回った。愛媛では双海の牛の峰や大洲・五十崎の神南山を飛行エリアとし、宇和島の鬼ヶ城から飛び立ち宇和島城を越えて坂下津の港にランディングしたこともあった。大空への憧れだったのだろう。しかし、それらが海外への旅・飛行機での移動システムへ興味を持つことに繋がる原動であったとも思っている。

パラダイス山元の「飛行機の乗り方」というオタク本があり、その本との出会いが益々飛行機の世界を広げてくれた。知らないことが多すぎた。今でも“紋別タッチ”という、理解不能の旅をしている人も多いらしい。オホーツク紋別空港には半年で50回来ている人もいて、棒グラフでランキングが張り出されていた。私の場合、紋別で1泊“紋別ステイ”となった。これは鉄道が廃止されて紋別の唯一の公共交通である1日1便の羽田路線の廃止が議論される過程で始まった存続運動が起源らしい。

④ 旅をするということ

10代後半に読んだシュリーマンの“古代への情熱”という自伝の中で、彼はトロイの遺跡が眠っていることをホメロスの詩から推察し、発掘のために事業で資金を貯めてついに発見したという話だが、その目的を達成しようという強い精神と信念は多くのもに通じている。

飛行機への憧れからパイロットになりたいと思ったこともあったが、世界の建築を訪ねる旅を経験した今は、むしろ、建築の道に進んで飛行機には乗客として乗ることが出来るのも幸せだと考えるようになった。シュリーマンのように自分を信じて生きることの大切さは人それぞれに存在するのだ。

そしてこれからの旅については具体的にはないが、臆気ながら南極大陸へ行くことにしようと考えてみた。アルゼンチンのウシュアイアまでは特典航空券で行き、そこからは砕氷船に乗り換える。実現出来なくてもいいし、行けたとこまでをゴールとする。引退してからのことになるだろう。イースター島でもガラパゴス諸島でもそれがゴールかもしれない。

自分が何のためにこの世に生を受けて生まれてきたのか、この世界がどんなだったのかを自分の目で確かめることがこれからの旅の目的なのだ。

第66回建築士会全国大会 「鹿児島大会」

第66回建築士会全国大会「鹿児島大会」に参加しました

総務企画委員会 委員長 井上 竜治

開催日：令和6年10月24日(金)
大会会場：宝山ホール（鹿児島県鹿児島市）
参加者：82名（うち本会企画ツアー参加者30名）

今回の大会テーマは「もえよ！建築維新『たぎる地で築くみらい』」。全国の建築士が一堂に会し、地域と建築の未来について語り合う機会となりましたが、私たちの旅は予期せぬアクシデントからスタートしました。

◎飛行機欠航から始まる大冒険

松山から鹿児島へ飛行機で向かう予定でしたが、悪天候で欠航に。急遽、松山観光港からフェリーで小倉へ渡り、そこから新幹線で鹿児島を目指すことに変更。飛行機なら1時間ほどの旅路が、なんと12時間にも！長い移動に疲れましたが、「これも思い出」と気持ちを切り替えて楽しむことにしました。



▲朝5時に小倉港へ到着！

◎船中泊で生まれた新たな絆

フェリーでは、船中泊となりましたが、これが意外な盛り上がりを見せました。参加者同士で宴会を開き、地元の建築事情やそれぞれの近況について語り合い、笑い声が響く大盛り上がりの前夜祭に。お酒も進み、気づけば酔いつぶれてベッドまで運ばれる仲間も（名前は秘密です！）。普段以上に深い交流ができたのは、このアクシデントのおかげかもしれません。



▲運搬中

◎地域実践活動で優秀賞！

翌朝、新幹線を乗り継ぎ、ギリギリで鹿児島に到着。中四国ブロック代表として愛媛の近藤岳志さんと永井由起さんが「建築士による防災講座～木造住宅の耐震化普及に向けて～」と題して発表しました。模型を使いながら、耐震の重要性を具体的に伝える内容で、多くの関心

を集めました。その結果、優秀賞（2位）を受賞！惜しくも最優秀賞には届きませんでしたが、愛媛の取り組みを広く知ってもらえたことが大きな収穫でした。



▲表彰式



▲耐震模型

◎藤縄さんと杉原さんが表彰式に出席

愛媛県より、連合会長表彰を藤縄洲二さん、大塚美由紀さん、杉山博司さんの3名と、伝統的技術者表彰を杉原孝さんが受賞されました。藤縄さんと杉原さんが鹿児島大会に参加され、式典にて表彰されました。

皆様おめでとうございます。今後ますますのご活躍を祈念致します。



▲藤縄さん



▲杉原さん

◎鹿児島の文化に触れる

大会式典では、奄美大島の伝統的な島唄が披露されました。三味線の音色と神秘的な歌声が響く中、会場全体が未来への挑戦に心を燃やす瞬間となりました。このような文化に触れることで、建築士として地域の背景を理解する大切さを改めて実感しました。

◎親睦ゴルフと観光でリフレッシュ

2日目は、観光組と親睦ゴルフ組に分かれて楽しみました。私は南国カンツリークラブでの親睦ゴルフに参加。桜島を背景に、雨もなんとか避けつつ気持ちよくプレーできました。



▲ゴルフの集合写真

今年の優勝は佐々木隆司さん！ みんなで拍手と笑顔

を送りながら、和やかな時間を過ごしました。一方、観光組は鹿児島県の歴史や自然を存分に楽しんだそうで、お土産話が盛りだくさんでした。

◎鹿児島大会を終えて

今回の鹿児島訪問は私にとって2度目でしたが、桜島が織りなす独特の風景や地域文化の奥深さに触れ、新たな発見がたくさんありました。この大会は、建築士としての視野を広げるだけでなく、地域との絆を感じる貴重な機会となりました。アクシデントも含めて、すべてが学びと楽しみに変わる素晴らしい体験でした。

次回も、さらに多くの仲間とこうした体験をしていきたいと思えます。これからも地域に根ざした建築士としての道を進んでいきます。

第66回建築士会全国大会 鹿児島大会に参加して

賛助会員 八松硝子建材株式会社 佐々木 隆司

10月24日(木)～10月26日(土)「第66回建築士会全国大会鹿児島大会」に参加させて頂きました。ツアー参加者30名、ハプニングありの楽しい旅となりました。

今回は大会前日の夜に鹿児島入りの予定でした。19時30分、松山空港に着くと何やら集合場所がざわついていて、どうも悪天候で飛行機が欠航となったようで、急きょ観光港に向かうことになりました。このようなハプニングに少しワクワクしてしまうのは私だけではなかったのでは…。無事乗船してからは、皆さまとおおいに盛り上がりました。少し飲みすぎました。

翌日、小倉駅から山陽・九州新幹線で2時間半、鹿児島中央駅には9時過ぎに到着しました。バスに乗り込みホッと一息つきます。

最初の観光は、特攻平和会館です。卓球の早田ひなさんが言われたことで少し注目を集めました。特攻隊員の凜とした写真や、とても美しい字でかけられた手紙などが展示されていました。月並みですが、平和の大切さを改めて考えさせられました。

昼食をとり、城山公園展望台に上がります。桜島、錦江



▲特攻平和記念館前

湾や鹿児島市街地が一望できる定番スポットであり、城山は西南戦争の最後の激戦地でもあります。

そしていよいよ全国大会の会場へ向かいます。午前から大会に参加されている方もいらっしゃいますが、私たちは15時からの大会式典に参加させていただきました。途中、車窓から西郷隆盛像を眺め、宝山ホールに到着しました。大会式典では、藤縄洲二さん、大塚美由紀さん、杉山博司さんが会長賞を。そして、濱崎組の杉原孝さんが伝統的技能者賞を受賞されました。誠にありがとうございます。



▲宝山ホール会場前

ホール前では、薩摩藩を中心に伝わった剣術、示現流が披露され、大変見応えのあるものでした。

大会後の夕食はさつま料理熊襲亭で名物料理、波のしずくきびなご、黒豚しゃぶしゃぶをいただきました。

3日目は、ゴルフ組と観光組に分かれ、私は南国カンツリークラブにてゴルフを楽しみました。16番打ち下ろしのショートコースでは、左手に海、桜島を眺めながらのコースです。それはそれは見事でした。最高!と気分も高まり、気持ちよくナイスショット。しかし、海からの強い風で、私のボールは流され木に当たりと散々なものでした。ダブルペリアのおかげで優勝させていただきました。有難うございました。

最後は観光組と島津家歴代の別邸「仙巖園」で合流し、鹿児島空港へと向かい、無事愛媛へ帰ってきました。

来年は食文化大阪で開催です。今から楽しみです。



▲桜島をバックに記念撮影

第66回建築士会全国大会 「鹿児島大会」

青年委員会担当セッション (地域実践活動報告会)

松山支部 近藤 岳志

令和6年10月25日金曜日、カクイックス交流センターにて、第66回建築士会全国大会鹿児島大会青年委員会担当セッション地域実践活動報告会が開催されました。私は6月に開催された中四国ブロック大会の代表として、全国大会に出場させて頂きました。

ブロック大会終了後、全国大会開催地である鹿児島に模型を持って行くべきだと、複数の方からお声掛けを頂き、当初は私が車に模型を積んで鹿児島まで行くつもりでしたが、私の今の立場が、あまり自由に動けない状況ということと、発表者がそんなリスクを負ってはならないとお叱りを受けまして、結局、松山から鹿児島まで運送屋さんで運んで頂くことになりました。

その際に、松山支部、青年委員会、女性委員会から運送費を支出して頂きましたことを心より感謝申し上げます。



▲各ブロック代表の展示スペース

大会前日に鹿児島に入り、届いた模型も問題無く設置が完了し、本番に向けての調整を念入りに行いました。

その頃、発表補助者である永井さんをはじめ、愛媛県のメンバーは、夜に鹿児島に到着予定でしたが、急遽飛行機が飛ばないアクシデントに見舞われ、松山・小倉フェリー経由、新幹線でなんとか鹿児島に到着し、本番に間に合いました。そんな中、先に鹿児島に来ていた士会メンバーの方に、発表直前の模型の移動やテーブルの設置などのご協力を頂きました。この場をお借りしまして、感謝申し上げます。

本番での発表の順番は7番目、1番最後で、どのようにプレゼンテーションするか、非常に悩みましたが、複数回の練習の結果、ジョブズスタイルだと、7分前後かかる一方、原稿を見ながら座って説明すると6分で終わるため、残りの1分で倒壊模型を加振する時間を確保でき

ることが分かりました。

本番は、発表補助者の永井さんと一度もリハーサルをしていませんでしたが、完璧に対応して頂き、無事に6分間の説明が終わり、いよいよ模型の加振となりましたが、適切な補強も不十分な補強も、両方倒れるアクシデントが発生し、そのまま発表は終わりました。

前日から、入念に調整をしていたので、なぜ両方倒れたのか、不思議でなりませんでしたが、他県の方からあとで聞いたお話だと、展示中に、いろんな方が筋かいを脱着したり、動かしたりしていたとのことでした。その状況を予測出来ていなかった私のミスでもあります。



▲地域実践活動報告会発表の様子

採点結果は、2位の優秀賞でした。正直、ここまで多くの方にご尽力頂いたのに、優勝出来なかったことは、本当に申し訳なかったと思います。やはり、私に足りないものがたくさんあったのだと思います。



▲表彰式の様子

発表終了後は、中四国の方を含め、全国の士会の多くの方から激励を頂き、久しぶりにお目にかかれた方もたくさんいらっしゃいました。

その後、宝山ホールで、記念フォーラム、大会式典等に参加しました。



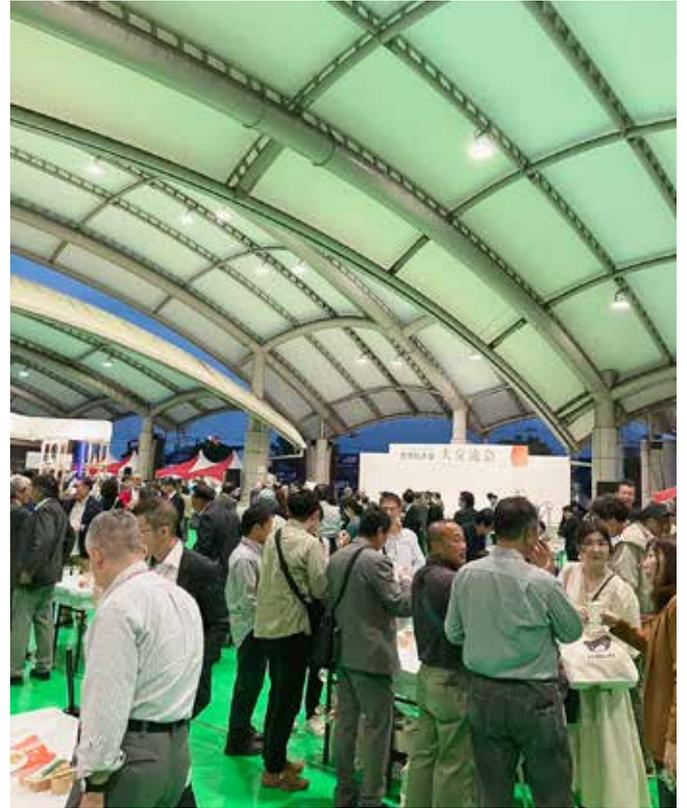
▲記念フォーラムの様子

大交流会は鹿児島市の複合施設「かんまちあ」という場所で行われ、数多くの美味しい焼酎をご用意頂きました。愛媛県のテーブルの隣が福岡県で、現在の福岡県建築士会の会長が、私が昔勤めていた設計事務所の所長（鮎川透さん）で、久しぶりにお目にかかり、福岡地域会の方をご紹介頂き、いろんなお話を聞くことができました。そのうえ、連合会会長の古谷さんと鮎川さんも仲が良いこともあり、ご挨拶をさせていただきました。古谷さんには、23年前に早稲田バウハウススクールin佐賀でお世話になったお話もできて、有意義な時間を過ごすことができました。

この全国大会出場がきっかけで、「建築士による防災講座」の活動と、倒壊模型を多くの方に認知して頂き、福岡市内の地域住民対象の防災講座の依頼を受けることになりました。依頼者は、可能であれば倒壊模型も見たいと言われていますが、松山から持って行けないので、今後福岡で活動を継続する可能性があれば、福岡県建築士会で倒壊模型を購入して頂こうと、現在、会長と防災部会長と協議をしているところです。

また、ブロック大会の発表がきっかけにはなりますが、香川県建築士会の中讃支部・西讃支部青年部会の方が倒壊模型の視察を希望され、11月2日(土)に8名の方にご参加頂きました。

多くの団体から愛媛県の活動に注目して頂いておりますが、今後の展望として、私のみならず、他の方でも防災講座で講演できるシナリオづくりや、倒壊模型の実演方法の動画づくりなど、新しい体制づくりを進めたいと考えております。



▲大交流会の様子

私は、今年45歳になりましたので、残念ながら青年委員としてはこれで引退となり、もう発表する機会はありませんが、今後は若い方に是非頑張ってもらいたいです。引き続き、よろしくお願いいたします。



▲地域実践活動報告会後の集合写真

(写真提供：永井由起様、武智良太様)

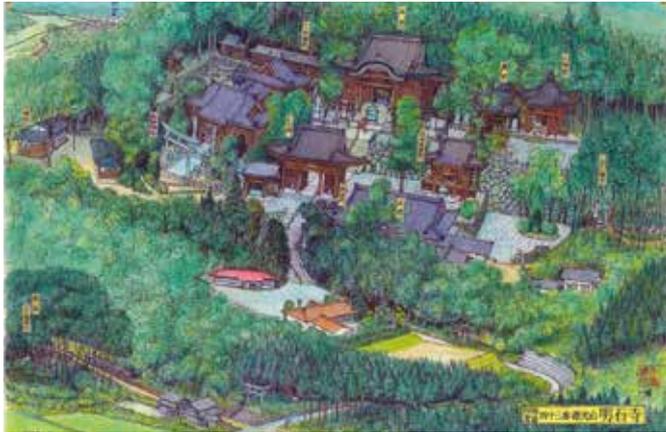
愛媛の有形文化財

げんこうざんえんじゅいん
「源光山円手院 明石寺」

文化財・まちづくり委員会 委員 渡辺 建文

西予市宇和町明石田之筋地区にある、四国八十八力所霊場第43番札所 源光山円手院明石寺は、建物が7棟・工作物が2か所、平成19年に国登録の有形文化財に認定されている。

この地は乙女に化身した千手観音菩薩がこもった霊地とされ、古来尊崇されてきた。6世紀前半に円手院正澄という行者が欽明天皇の勅願により中国からの渡来仏である千手観音菩薩を祀るため、この地に七堂伽藍を建立して開創したのが起源とされている。弘仁13年(822年)に弘法大師が訪れ1回目の伽藍の復興を、建久5年(1194年)には源頼朝により2回目の伽藍の復興がなされている。(寺伝より)



▲ 第43番札所 源光山明石寺

駐車場から仁王門に至り本殿に至る“石段及び石垣”“石垣及び塀”は、大正期から昭和初期に建造されており、「建造物」として文化財に登録されている。



▲ 最初の石段



▲ 仁王門をくぐった先の石段

最初の石段を上ると、正面に①仁王門、左手に②手水舎が見える。右手には③客殿がある。仁王門の右手には④地藏堂。仁王門をくぐり石段を上ると、⑥鐘楼堂がある。正面には⑥本堂が位置する。その右手には、⑦大師堂がある。



①仁王門(明治34年築)

左右の部格子の中に金剛力士像が構える。丸柱12本建て。出組に二重軒、屋根は入母屋造りに茶系の檜皮瓦葺き。



②手水舎(昭和12年築)
礎石上に内転び角柱を配置。洗心文字の手水鉢。屋根は切り妻流れ造りに、銅板一文字葺き。

和44年一部改修)

正面10間・側面6間。一重軒の入母屋造り。正面に唐破風屋根、共に瓦葺き。伸びやかな軒が目を引き。



④地藏堂(明治42年築)
屋根は入母屋流れ造り瓦葺き。軒は三手先組に二重軒。軒廻り・向拝廻りの装飾としての彫刻が特に見事である。

⑥鐘楼堂(江戸末期築)▶
1間角。内転び四方柱に、3段貫を通す。柱頭台輪組に斗組を施し二重軒が載る。屋根は入母屋瓦葺き。隅棟先にも鬼瓦を載せている。



⑥本堂(明治23年築)

丸柱、平三斗組、二重軒。屋根は入母屋造り茶系石州瓦葺き。向拝屋根は唐破風造り、檜皮葺。彫刻では正面に出鼻獅子、左右にバク、中央墓股に竜を配し正面向拝懸魚には鳳凰が舞う。

⑦大師堂(明治13年築)▶

3間角の母屋に向拝。丸柱、平斗組、二重軒。屋根は向拝付きの寄棟流れ造り、瓦葺き。簡素な美しい形の建物である。



建築市民講座 郡中まち探検ワークショップ！

文化財・まちづくり委員会 眞田井 良子

主催：(公社)愛媛県建築士会文化財・まちづくり委員会、(公社)日本建築家協会愛媛地域会

【背景と目的】

今年度の建築市民講座は、小学生～高校生を対象に、伊予市の郡中を舞台に、まち歩きワークショップを行いました。持続可能な開発目標であるSDGsにおける「⑩住み続けられるまちづくりを」「⑨つくる責任つかう責任」を達成していくために、子どもたちと自分の住むまちを歩いて「タカラ」と「アラ」を見つけ出し、そこらどのようなにしていったらまちが良くなっていくかを考え、まとめて、市長へ届けていき、「子ども参画」を通して、地域への誇りと愛着を育むことを目的としています。

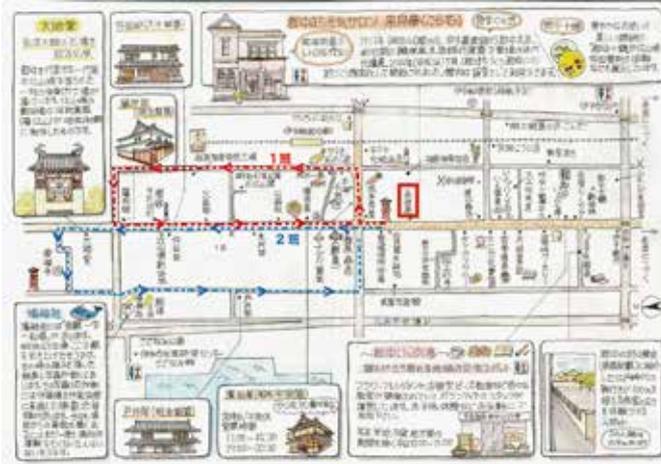
【事前勉強会：5名参加】

日時：令和6年10月20日(日)9:00～12:00

参加：大西千里、眞田井良子、武智和臣、花岡直樹、峰岡秀和

場所：来良夢（伊予市灘町7）とその周辺

内容：当日の班分けとルート確定のため、実際にコースを歩いて、大人の目線ですが「タカラ」と「アラ」をインスタントカメラの使い方も試しながら撮影して、どの班も、主要なルートを通るようにし、別々の発見があるように2通りのルートを歩けるようにしました。



▲ 1班と2班のルート（郡中まち歩きマップより）



▲ 3班と4班のルート（郡中まち歩きマップより）

【当日のワークショップ】

日時：令和6年11月4日(月・祝)13:30～16:30

会場：来良夢（伊予市灘町7）とその周辺

参加：郡中小学校1年生2名

翠小学校5年生3名、6年生1名

松前小学校6年生1名

松山南高等学校1年生2名

済美高等学校2年生1名・保護者3名

スタッフ：建築士会文化財・まちづくり委員会4名

建築士会伊予支部3名

建築士会サポートの会4名

建築家協会愛媛地域会4名

当日のスケジュール：

13:30 文化財・まちづくり委員会委員長 峰岡 挨拶

13:35 当日のスケジュール・目標 眞田井説明

「郡中に住んでいる人、訪れる人が ちょっぴりor たっぴり ハッピーになる提案をしよう！」

郡中の歴史 峰岡説明

グループワーク

自己紹介、役割分担決め（撮影、指し棒）

インスタントカメラの使い方の練習など

14:00 まち歩き

インスタントカメラで「タカラ」と「アラ」を撮影

15:00 休憩

15:10 模造紙「タカラ」と「アラ」の写真を貼り付け、付箋に説明を記入

15:40 模造紙に「郡中に住んでいる人、訪れる人がちょっぴりorたっぴり ハッピーになる提案」を書き足す

16:00 各班発表

16:30 建築家協会愛媛地域会会長 岡村 挨拶
記念撮影



▲ 郡中の歴史紹介



▲ 「タカラ」と「アラ」を写真に撮りました

提案の中には、以下のようなワクワクするような提案が出てきております。

<空き地の活用>

- ・子どもが遊べる公園や広場になったらいいな
- ・芝生+山羊+ブランコ+ジャングルジム
- ・木登り、どんぐり拾い、ピオトープ
- ・鬼ごっこ、走れるところ、タイヤの山

<一休みスポット>

- ・ベンチをあちらこちらに

<古いものの活用>

- ・お風呂屋さん
- ・古い家、古い蔵
- ・郡中の伝統や昔ながらのものを守る
- ・レトロなお店がこのまま続きますように
- ・かつての「アラ」も今は「タカラ」

<道路の整備>

- ・一方通行にして両側に歩道を作る
- ・商店街を歩いて回れるようになったらいい
- ・道を広くしたらいい
- ・道が狭い方がいい
- ・光がないと目立たないから街灯があればいい
- ・この付近のタイルが独特なこのタイルになればいい

<観光>

- ・説明している看板が欲しい
- ・散歩のコースを考える
- ・川の跡がもっと見えるようにしたい
- ・見つけた「タカラ」がよく見える場所になったらいい
- ・QRコードでまち案内があるといい
- ・お菓子などが食べられる場所が欲しい

今後は、この内容を伊予市武智市長に持っていき、

- 1) すでに実施していること
- 2) 実施の予定があること
- 3) 実施を検討してもよいと思われること

などに振り分けていただき、子どもたちに市長からの返答をお届けする予定です。また、参加してくれた子どもたちには「まち育て参画賞」を授与する予定です。

ワークショップの後、子どもたちから「本当に公園ができるのかな〜」と期待感を持ってきているというご連絡がありました。『まち育ては人育て』—自分達の提案したことが今後どのようにまち育てにつながっていくか、長い目で応援していきたいと思えます。



▲「郡中に住んでいる人、訪れる人がちょっぴりorたっぷりハッピーになる提案」を書き足しています



▲徳田さんの茶室にも入らせていただきました。躰口から入るのは初体験でした！



▲4班それぞれ考えたことを発表していただきました
赤い付箋は「タカラ」青い付箋は「アラ」黄色い付箋は「提案」です



▲「タカラ」と「アラ」の写真を貼って、付箋に説明を書いています



▲記念撮影

令和6年度中四国ブロック 若手建築志(士)交流会in愛媛報告

実行委員長 遠藤 彰騎

開催日：令和6年9月21日(土)～22日(日)
場 所：四国中央市、新居浜市、西条市
参加人数：他県50名+愛媛県15名

令和6年度中四国ブロック若手建築志(士)交流会in愛媛が開催されました。

1日目に、四国中央市の紙のまち資料館で手漉き和紙づくり体験、川之江ふれあい交流センターで水引体験を行いました。16～17人を1班として、3班で順番に手漉き体験をおこない、他の2班が水引体験をおこなう形でした。手漉き体験でははがき作りを行い、職員の方の説明を受けながら、手漉き、脱水、乾燥の各工程を体験していただきました。



▲手漉き和紙づくり体験の様子

水引体験では、講師の方の指導のもと水引細工を作り、その水引細工をうちわに固定してオリジナルのうちわをつくりました。和気あいあいとした雰囲気、水引細工を楽しんでくれました。



▲講師の方を含めての集合写真

四国中央市での体験終了後、新居浜市の『みなと』で交流会を行いました。普段話すことのできない他県の方々と意見交換などを行うことができ、有意義な時間となりました。



▲懇親会での集合写真

2日目は、西条市日本基督教団 西条栄光教会と栄光幼稚園の見学を行いました。講師として今治支部の長井さんと西条支部の高木さんに、改修工事等の内容についての説明をしていただきました。



▲西条栄光教会見学の様子

西条栄光教会と栄光幼稚園の見学終了をもって、今回の若手建築士交流会は終了となりました。参加者の皆さんには、最後まで楽しんでいただけたようでした。

今回の交流会では、初めて実行委員長のような役職を拝命したため、当日バタバタとしてしまい、スタッフとして参加してくれた愛媛県の皆さんに、ご迷惑をお掛けした部分もあったかと思えます。今回の経験を、今後の建築士会の活動に活かしていきたいと思えます。

最後に、若手建築志(士)交流会in愛媛に参加して下さった参加者の皆さんと、愛媛県のスタッフの皆さんにお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

青年委員会主催 「支部対抗ソフトバレーボール大会」



優勝報告

松山支部 松山Aチーム 松平 定真

開催日：令和6年11月16日(土)
会場：川内体育センター（東温市北方）
参加者：94名（12チーム）

11月16日(土)に青年委員会主催の「支部対抗ソフトバレーボール大会」が東温市の川内体育センターで行われました。12チームの参加があり、松山支部からは松山A・B・Cの3チームでの出場でした。

昨年の松山Aチームの成績が良くなく、打ち上げの席で、Bチームに降格でしょ…と言われていたので、今年は朝から気合を入れて頑張ろう！とメンバーといろいろ作戦を考えました。

リーグの抽選で、幸か不幸か第1試合が松山C（安藤）チームと対戦となりました。普段一緒に練習していることもあり、「なんとなく勝てるだろうな(笑)」と思い試合に挑みました。が、Cチームの団結力に苦戦する羽目となりましたが、なんとか勝つことができました。

2試合目は四国中央Bチームとの対戦でした。四国中央Bチームは昨年最下位だったので、「今回も勝てるだろうな…」と思いましたが、1試合目の苦戦もあり、油断せずに挑むことで無事に勝つことができました。

3試合目は四国中央Aチームとの対戦でした。準決勝の試合でしたが、「四中Aは強い。」ということを経験前に聞き、気合を入れて挑みました。試合の序盤で、5点差もつけられて負けていたので、「あー、負けたかなあ…」と思っていましたが、松岡さんのサーブが連続で決まり、同点にまで持ち込み、「勝てるんじゃないかな!!」という気持ちに切り替わりました。その後は1点2点の接戦で試合が進み、残り30秒くらいで1点差で勝つたので、「勝てる!!」と思いましたが、試合終了時に同点に持ち込まれ、サドンデスの試合となりました。メンバーみんなで気合マックスで挑み、最後は宇都宮さんのアタックで決まり。のはずでしたが、ラインズマンが旗を上げて「え??いや、ここから見てもインだったような…。[え???]」となりましたが、ラインズマンの誤審ということが分か

り、なんとか勝つことができました。

4試合目の決勝は西条Aチームとの対戦でした。3試合目でみんな疲れ切っていましたが、強いチームとの勝利の後だったので、落ち着いて試合が進み、優勝を手にすることができました。

毎年のことですが、今年はかなりの緊張感も味わいました。楽しかったです。2連覇を狙えるよう、練習も欠かさずしたいなと思います。ただ自分も含め、高齢化の波が来ているような気がします。来年はもっと若手が増えるようにできたらなと思います。

最後になりますが、準備・運営でいろいろ動いてもらった、武智青年委員長はじめ、青年委員のみなさん、ありがとうございました。また、参加された各支部のみなさんと事務所協会チームのみなさん、お疲れさまでした。

来年もよろしくお願いたします。



▲花岡支部長ナイススト

▼優勝メンバーと祝賀会



ソフトバレー大会の結果を振り返って

今年の建築士会ソフトバレー大会では、前回最下位の汚名を晴らすため2チーム編成し、全体練習も月に2回行い気持ちは万全の状態でした。

予選リーグで2試合敗北、最下位トーナメント初戦でも惜しい試合をものにできず敗北、最終戦は力を出し切れないまま敗北し、2年連続最下位、2年連続全敗という不名誉な結果に終わりました。正直、この結果を受けて悔しさや無力感が湧き上がる一方で、多くの学びと次への課題が明確になった大会だったと感じています。

最下位トーナメントの初戦では、同点で迎えた最後の1点を取った方が勝つという状況に持ち込むことができました。試合時間ギリギリまで粘り、チーム全員が勝利を目指して全力を尽くした姿勢には、自分たちの成長を感じる場面もありました。しかし、結果としてその1点を取ることができず敗北してしまったことは、悔しさが残る瞬間でした。あと少しの集中力や冷静な判断ができていれば、違う結果になっていたかもしれないと思うと、改めて勝負の厳しさを実感しました。

この試合で痛感したのは、勝負の場では「最後の1点を取る力」がいかに重要かということです。それは単なる技術力ではなく、試合の流れを読む力や、プレッシャーの中で冷静さを保つメンタルの強さが大きく影響するのだと感じました。また、練習や試合を通じて、そのような場面に対応する経験をもっと積む必要があると痛感しました。

最下位トーナメント最終戦では、初戦の接戦で力を出し切った反動もあり、集中力が気持ちは途切れてしまった感が否めません。試合に入る前から、どこか消極的なムードがチーム全体に漂っており、結果として、自分たちのペースを作ることができないまま試合が進んでしまいました。ここで感じたのは、体力だけでなく、気持ちを切り替えて試合に臨む「精神的な持久力」の必要性です。どれだけ疲れていても、一つの試合ごとに気持ちをリセットし、次の試合に全力で挑むための意識を持つことが大切だと感じました。

2年連続最下位、2年連続全敗の結果を受けて

今回の結果は、勝負の世界の厳しさを教えてくれる一方で、自分たちの課題を明確に示してくれました。今年の結果は、技術や戦術の不足だけでなく、試合運びの工夫やメンタル面の課題、そして練習環境の改善が必要であることを教えてくれたように思います。しかし、同時にこの大会で得られたものも多くありました。チーム全員が一つの目標に向かって声を掛け合い、粘り強くプレーしたことは、たとえ最下位であっても誇れる成果です。また、大会を通じて、仕事の場とは異なる形でメンバーと協力し合い、支え合う時間は、普段の職場では得られない特別な経験でした。

四国中央支部事務局 三好 宏享

次回に向けて

2年連続最下位&全敗という悔しい結果を単なる敗北として終わらせるのではなく、次回への糧とすることが大切だと思います。まずは、練習時間の確保やメンバー全員が参加できる練習環境の整備を考えたいです。また、勝利を目指すだけでなく、試合そのものを楽しみ、最後まで諦めない姿勢を続けることが、次回以降の大会での成績向上につながると信じています。

次回の大会では、一つでも多くの勝利を目指し、チーム全員で努力を重ねていきたいと思っています。この2年間の悔しさを原動力に変え、より強いチームとして戻ってくることを目標にしています。そして、何よりも建築士会の仲間とともに、この大会を通じてさらに深い絆を築けることを楽しみにしています。



▲四国中央A・Bメンバーで記念撮影



▲四国中央Aチームの試合風景

結果順位

優勝	松山A	7位	松山C
2位	西条B	8位	新居浜
3位	四国中央A	9位	伊予
4位	西条A	10位	今治
5位	宇和島	11位	事務所協会
6位	松山B	12位	四国中央B

建築士の日の行事 「家づくり体験 建築模型づくり」

松山支部 青年・女性委員会 委員長 白石 学

開催日：令和6年8月4日(日)

開催場所：浮穴公民館

参加者：浮穴小学校児童13名+保護者
スタッフ13名

松山支部では、建築士の日の行事として子供達を対象とした「家づくり体験 建築模型づくり」を夏休みの期間中に毎年開催しています。

今年度は浮穴公民館から依頼を受けて、松山市が定める「まつやまこどもの日」の事業体験学習の一環として、浮穴小学校の児童を対象にして開催いたしました。

浮穴小学校の1年生から6年生まで合計13名の子供達が参加してくれました。

作業時間については、午前と午後の5～6時間程必要なのですが、低学年の子供の参加もあり、集中力の問題や会場の都合などで10時からお昼までの2時間の開催としました。

建築士会の私たちが建築模型を作る場合でも、結構な時間が掛かります。それが初参加の子供達が、初めての模型作りです。真っ白なスチレンボードに設計図を貼り付け、カッターで切るところからとなると、なかなか時間が掛かります。私達スタッフがお手伝いしながらの作業でも、昨年までの状況では、何とか真っ白い建物が形になった所で終了の時間が来てしまい、その後の建物の装飾、外構や庭廻りの飾り付の作業が出来ない子供達がありました。

子供達が作る家の模型なので、家の形はシンプルな物にしています。外構の飾り付けなどで個人個人のオリジナリティーが出てきます。その作業に時間を掛けられる様に、今年は私達スタッフが家の模型のパーツのカットまで事前準備し、子供達は組み立てるところから作業がスタートする仕組みとしました。

その結果、今回はほとんどの子供達は1時間程度で何とか家の形になりました。



▲子供達とスタッフ

その後の建物の装飾、外構の飾り付けの作業がこの建築模型作りの面白いところです。

板金屋根に見える様な材料、芝生に見える様な材料など、いろいろな想定できる材料を準備していました。

子供達の作業を見ていると、私達は壁の素材だろうなと考えていた物を屋根の材料に使ったり、凄い発想だと思ったのは、水色のセロハンを丸く切ってその周りに石の様な材料を並べて縁を作り、その中に透明のボンドを流し込んでいく子供がいました。何が出来たか解りますか？それは水面が波打った様な池だったのです！

準備した材料を使って、私達には思いもつかない子供達の自由な発想で、楽しそうに装飾していました。



▲子供達と



▲いろいろな材料



▲スタッフ



▲スタッフ集合

終了時間の頃に、「もう少しで終わりなので片付けをお願いします。」と言っても「もう少ししたい」と言う子供もいました。

最後は子供達の作った家の模型を全て並べて、オリジナルの街を作って記念撮影し、無事に終了しました。



▲集合写真

この建築士の日の行事に参加した子供達の中から建築が面白そうと興味を持ってもらい、将来建築関係の仕事についてもらえたらと、そしてその中から愛媛県建築士会の会員が出てくる事を夢んでいます。

建築士会の会員の減少や、建設関係の技術者の減少の話ばかりですが、愛媛県にも大学の建築学科が開設されるとの嬉しい噂が届く中、今後も子供達を対象とした行事を継続したいと思っています。

当日のスタッフならびに事前の準備にご参加された建築士会の会員の皆様お疲れ様でした。

関係者の皆様へ、心より感謝申し上げます。

故郷の建築と防災を考える出張セミナー 「愛媛で起こりうる災害ワークショップ」

松山支部研修・技術委員長 相原 昌彦

日時：令和6年8月7日(水) 9:00~11:00

場所：松前町役場2階会議室

講師：愛媛大学防災情報研究センター

愛媛大学社会共創学部 副センター長

二神 透 准教授

参加者：伊予高等学校学生6名 教諭：2名

松前町職員4名

今年7月12日に松山城のお城山で大雨による土砂崩れが発生し、8月8日には宮崎県日向灘沖を震源とする、最大震度6弱の地震が発生し、気象庁は南海トラフ地震臨時情報の「巨大地震注意」を初めて発表しました。

そんな折、愛媛大学社会共創学部・二神透准教授を招いて「愛媛で起こりうる災害」と題して、高校生を主体に防災セミナー&ワークショップを開催しました。



▲セミナー風景

南海トラフ地震は1605年 慶長地震～147年後の安政南海地震～90年後の昭和南海地震と100～150年周期で発生しています。愛媛県では南海トラフ地震が発生した場合の最大震度は6強～7と予想しています。



▲倒壊した内灘町の家屋を調査する二神准教授

二神先生が最大震度7を記録した能登半島地震の被害状況を撮影した写真をもとにその様子を説明しました。新耐震前に建築されたと思われる木造住宅は倒壊し、RC造3階建ての小学校でも、応急危険度判定により「危険」と判断される被害を受けていました。学校施設は緊急時の避難場所に指定されているので「質実剛健」で設計されていますが、そんな施設までも…。改めて震度7の桁違いの破壊的なエネルギーが分かります。



▲立ち入り禁止の穴水町穴水小学校

能登半島地震は地盤の液状化も被害を大きくした要因とされます。路面から浮き出したマンホールや、道路の左右で傾斜している路面等、インフラにも大きな被害がありました。県内に目を向けると、ほとんどの平野部は液状化危険度判定で「極めて高い」と判定されています。これらのお話を聞いていると、建築士として出来ることは、限られていると感じました。



▲路面から飛び出した輪島市のマンホール

2018年7月に発生した西日本豪雨災害から6年が経過しましたが復興半ばです。これを受けて2021年に「大雨警戒レベル」が変わりました。「警戒レベル2」までは気象台、「警戒レベル3」以降は市町が発令します。

令和3年5月20日(木)から避難情報が変わります！

5段階の警戒レベル

警戒レベル	避難情報	仕様がとるべき行動	発表時期
警戒レベル 5	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保！	市町が発令
<警戒レベル4までに危険な場所から必ず避難！>			
警戒レベル 4	避難指示	危険な場所から 全員 避難	市町が発令
警戒レベル 3	高齢者等避難	危険な場所から 高齢者等 避難	
警戒レベル 2	大雨・洪水・高潮注意報	避難に備え、ハザードマップなどにより、 自らの避難行動を確認	気象台が発表
警戒レベル 1	早期注意情報	防災気象情報などの最新情報に注意するなど、 災害への心構えを高める	

*「避難指示」は廃止され、「避難指示」に一本化されました。

▲避難警戒レベル

- 警戒レベル1：早期注意情報で災害への心構え
- 警戒レベル2：避難行動を確認
- 警戒レベル3：高齢者や障がい者等は避難
- 警戒レベル4：全員が避難
- 警戒レベル5：災害の発生・切迫

お城山の土砂災害が未明に発生しましたが、土砂災害に関する「警戒レベル5緊急安全確保」を発令したのは午前5:00でした。高齢者等避難となる「警戒レベル3」からは気象台ではなく市町が発令するので、情報の入手経路の再確認が必要です。大雨災害は時々刻々と変化するので、夜間に雨が降り続く場合は、日没前に避難行動へ移る決断力とフットワークが重要だと思います。

愛媛で起こりうる災害の講義を踏まえて「地域の防災力を高めるには」をテーマにワークショップをしました。

- ・先生・生徒、大人・子供関係なく主体的に参加
- ・体感・分析・概念化し学び続けるプロセスを重視
- ・お互いから学び合う相互作用

ファシリテーター（進行促進役）を決めて思いのままに「一人10項目提案！」を条件に開始しました。



▲伊予高3年Sチーム



▲オールスターズチーム

ペンが進むチームメイトに焦りつつ、鉄板の「住宅の耐震化」や「食料・水の確保」の他に「外国人への対応と情報発信」との項目もあり、私には閃かないグローバルな発想に、若者感覚を目の当たりにしました。

バラバラだった個々の項目を、分類別・因果関係を整理して行くと徐々に意見交換が活発になり、取り組むべきことが明確になり、分類毎の方向性が見えてきました。

各チームで結果発表をし、二神先生から感想と総括を頂き2時間のセミナー&ワークショップを終えました。



▲結果発表

学生にセミナーに参加しての感想を頂きました。その一部を紹介します。

「防災を考え、共有する事で自分に無かった考えを知り、自分や行政・地域等いろいろな立場で、災害が起こった際に被害を減らす工夫が見つかった。それを知るだけでなく行動する事で被害を減らせると思うので、今後は積極的に行動したいと思う。」

最後に講師をして頂いた二神先生、生徒をご指導頂いた空野先生・新田先生、企画・会場準備を頂いた役場職員の皆様、ご協力頂いた皆様に心からお礼申し上げます。

謹賀新年 2025年

<p>国土交通大臣Hグレード認定工場</p>  <p>前原工業株式会社</p> <p>代表取締役社長 前原 進一</p> <p>〒791-3131 愛媛県伊予郡松前町北川原1108-1 TEL089-984-7757 FAX089-984-7759 https://maehara-kougyou.com/</p>	 <p>株式会社 横田建設</p> <p>代表取締役 横田 郁</p> <p>〒791-8015 愛媛県松山市中央一丁目9番20号 TEL089-922-4181 FAX089-923-3843</p>
<p>人を築く。未来を築く。</p> <p>総合資格学院 松山校</p> <p>支店長 山下 健司</p> <p>〒790-0003 愛媛県松山市三番町7-13-13ミツネビルディング7F TEL089-947-2611 FAX089-947-2622 https://www.shikaku.co.jp/school/chugoku-shikoku/matsuyama/</p>	<p>一般社団法人 愛媛県中小建築業協会</p> <p>会長 佐々木 敬史</p> <p>〒790-0878 愛媛県松山市勝山町2丁目3-1 TEL089-943-5525 FAX089-943-5545 https://hime-ken.com</p>
<p>スタイロフォーム、各種断熱材</p> <p>木野内化成産業株式会社</p> <p>取締役社長 篠崎 孝</p> <p>〒790-0052 愛媛県松山市竹原町1丁目5-5 TEL089-941-9242 FAX089-932-7212 http://kinoutikasei.co.jp</p>	 <p>株式会社 二宮工務店</p> <p>取締役松山支社長 二宮 広明</p> <p>〒790-0934 愛媛県松山市居相4-22-18 TEL089-956-2888 FAX089-956-2889 https://www.ninomiyakoumuten.com</p>
<p>創業40余年の信頼と実績</p> <p>有限会社 福田瓦工業</p> <p>代表取締役 福田 大輔</p> <p>〒791-8041 愛媛県松山市北吉田町1022番地1 TEL089-968-6118 FAX089-968-6119 https://fukuda-kawara.co.jp</p>	<p>—くらしを謳歌するコウヨウ—</p> <p>興陽商事株式会社</p> <p>代表取締役 佐々木 敬史</p> <p>〒799-0101 愛媛県四国中央市川之江町1655番地3 TEL0896-58-5298 FAX0896-58-7345 https://1-koyo.com</p>
<p>Nature for The Future</p>  <p>オオノ開発株式会社</p> <p>〒791-0242 愛媛県松山市北梅本町甲184番地 TEL.089-976-1234 FAX.089-976-8700 https://www.oono-as.jp/</p>	<p>ダイヤアルミ株式会社</p> <p>代表取締役社長 酒井 才次</p> <p>〒799-3111 愛媛県伊予市下吾川1873番地 TEL089-982-8810 FAX089-982-8815 http://www.daiyaalumi.co.jp</p>
 <p>人と自然の調和</p> <p>尾藤建設株式会社</p> <p>代表取締役 尾藤 淳一</p> <p>〒799-0101 四国中央市川之江町2250 TEL0896-58-2426 FAX0896-57-1563 https://bitoh.co.jp</p>	 <p>四国化成</p> <p>四国化成建材株式会社</p> <p>西日本営業部 四国支店</p> <p>〒764-0017 香川県仲多度郡多度津町西港町42 TEL0877-58-5211 FAX050-3606-6318 https://kenzai.shikoku.co.jp</p>

私たちは(公社)愛媛県建築士会の賛助会員です。

愛媛県しろあり対策協会

会長 友清 重孝

〒791-8001 愛媛県松山市平田町502番地
TEL089-979-6692 FAX089-979-6692
<http://hakutaishikoku.com>

人を育て、企業を育て、社会に貢献します。

トス愛媛 株式会社

代表取締役社長 村上 裕城

〒790-0925 愛媛県松山市鷹子町442番地1
TEL089-955-7733 FAX089-955-7734

美しさとやすらぎを創造する…



フジワラ化学株式会社

代表取締役社長 赤岡 泰光

〒799-1342 愛媛県西条市大新田94
TEL0898-64-2421 FAX0898-64-4034
<https://www.fujiwara-chemical.co.jp>

有限会社 山口鉄筋

代表取締役 山口 勇人

〒791-8044 愛媛県松山市西垣生町350-1
TEL089-973-4031 FAX089-973-4036
<https://www.yamaguchitekkin.com>

県内唯一建築を学べる2年制～4年制の学校

学校法人
河原学園

河原デザイン・アート専門学校

校長 白石 隆保

〒790-0002 愛媛県松山市二番町1-12-2
TEL089-931-9111 FAX089-946-0074
<https://idea.kawahara.ac.jp>

「安心と信頼」の地盤づくり



～Trust and Peace of Mind～

東昇技建株式会社

代表取締役 小泉 啓典

〒791-1113 愛媛県松山市森松町147-1
TEL089-970-6814
FAX089-970-6815



改正法の建築士サポートセンターを開設中



株式会社 愛媛建築住宅センター

代表取締役 井上 竜治

〒790-0003 愛媛県松山市三番町4丁目4-7 松山建設会館3F
TEL089-931-3336 FAX089-931-3362
<http://www.ehime-center.co.jp>

防災のエキスパート 総合防災設備施行・点検



代表取締役 正岡 尚起

〒791-8006 愛媛県松山市安城寺町156番地
TEL089-924-3822 FAX089-924-3865
<https://www.ued-s.co.jp>



株式会社 友清白蟻

代表取締役 山辺 利成

〒799-2654 愛媛県松山市内宮町513番地
TEL089-978-2630 FAX089-979-6212
<https://tomokiyo.co.jp>



KANSAI
PAINT

関西ペイント販売株式会社

丸亀営業所 / 〒763-8510 香川県丸亀市土器町北2丁目88
TEL0877-24-5484 FAX0877-24-4950
<https://www.kansai.co.jp>



株式会社 国代耐火工業所 大阪支店

支店長 岩城 隆晴

〒541-0046 大阪府大阪市中央区平野町4-6-16
TEL06-6229-9246 FAX06-6229-9247
<http://www.agorabrix.co.jp>

株式会社 岸之上工務店

代表取締役社長 岸之上 憲一

〒780-0033 高知県高知市西秦泉寺435番地1
TEL088-822-2222 FAX088-822-5833
<https://www.kishinoue.co.jp>

私たちは(公社)愛媛県建築士会の賛助会員です。

謹賀新年 2025年



品質にこだわり仕事に誇りを

コーエキ株式会社

代表取締役 明関 一博

〒790-0913 愛媛県松山市畑寺3丁目11-31
TEL 089-946-1141 FAX 089-932-8499
<http://kissjp.com>



家を守る 地球を守る やさしいガラス

八松硝子建材(株)



代表取締役 佐々木 隆司

〒791-1102 愛媛県松山市来住町14-4
TEL089-975-3309 FAX089-975-3310
<http://www.hassho.net>



株式会社 松山合板社

代表取締役 大野 晶平

〒790-0062 愛媛県松山市南江戸1丁目2番2号
TEL089-931-8268 FAX089-933-9274
<http://www.matsugou.jp>

空調設備・給排水衛生設備・エレベーター



株式会社 戒田商事

〒791-1114 愛媛県松山市井門町190番地1
TEL089-956-2295 FAX089-956-2240
<https://kaidae.com>

松山支店は昨年開設20周年を迎えました。



日本ERI株式会社

松山支店 支店長 西川 達倫

〒790-0003 松山市三番町7-1-21
ジブラルタ生命松山ビル3F
TEL089-913-6311 FAX089-913-6353
<https://www.j-eri.co.jp>

環境を守る。未来を変える。

PROTECT×CHANGE



代表取締役社長 大亀 裕貴

〒791-8022 愛媛県松山市美沢1-9-1
TEL.089-927-2222 FAX.089-927-3335 <https://www.daiki-axis.com/>



ALways Security OK

愛媛総合警備保障株式会社

代表取締役 阿部 克彦

〒790-0054 松山市空港通2-6-27
(代)089-971-2010



自然を生きし未来へ繋ぐ

株式会社 宮田建設

代表取締役 奥田 賢司

〒798-0004 愛媛県宇和島市朝日町4-3-25
TEL0895-22-1567 FAX0895-25-0009
<http://miyata-kensetsu.jp>

有限会社 石丸ガス商会

代表取締役 石丸 泰弘

〒790-0004 愛媛県松山市大街道3丁目2番地41
TEL089-921-2505 FAX089-921-2405



今治・松山・宇和島・大洲・西条・四国中央・多度津
TEL0898-32-5000(代) FAX0898-31-5513



私たちは(公社)愛媛県建築士会の賛助会員です。

あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

「いしづち」の次号の原稿締切日

令和7年 3月号 (163号) 令和7年1月23日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので予めご了承ください。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。 情報・広報委員会

読者の声欄 「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(土会事務局内) 宛 FAX 089-948-0061

編集後記

皆さんは、岡本太郎がデザインした太陽の塔に入れることをご存知でしょうか。

芸術家の岡本太郎がデザインし、丹下健三が陰で支えた太陽の塔は、1970(昭和45)年の大阪万国博覧会開催時にシンボルゾーンであったテーマ館の一部として造られました。その後、「工作物」として保存され、構造・安全上の点から人が入ることができなかった太陽の塔を、1年以上の改修工事を終えて、常時観覧できる「建築物」へと2018年3月19日から蘇らせました。

私はそんな前情報も知らずに太陽の塔に入って参りました。どの様に建築物へと改修したのでしょうか。

1. 安全性確保のために

耐震性能が不足していた塔は、腕より下は内側に鉄筋コンクリートの壁200mmの増打ち補強を行いました。腕より上部は補強箇所が内外から一切分らないよう鉄骨補強を行い、塔内最上部の水平線の裏に隠しながら、万博当時の空間演出と耐震補強を両立させました。水平線上部には機械排煙機を見えない位置に据え、全館避難安全検証法により密閉空間での火災に対する安全性を確保していました。

2. 内部を観覧する人のために・外から眺める人のために

膨大な入場者を処理するため、生命の樹(40m)の展示物を見ながら登るため、万博当時はエスカレーターが設けられていましたが、階段に付け替えることで、思い思いの時間の中で鑑賞が可能な計画としていました。耐震補強を行った後、壁面の拡散版と生命の樹の展示物を復元し、万博当時の空間を再現しています。右腕部の既設エスカレーターは撤去し、むき出しの鉄骨フレームを展示物として見せ、ライトアップしカッコ良く演出されていました。また、壁添いの螺旋階段や交差して架かる4つの階段を8の字を描くように設置しています。この交差するブリッジもカッコ良く演出されていました。

唐突ですが、太陽の塔には4つの太陽の顔があるのをご存知でしょうか。

私は正面にある2つの顔、頂部の「黄金の顔」、胴の「太陽の顔」までは知っていたのですが、背中の「黒い太陽」があったことに驚かされ、さらに地下にもう1つ金色の「地底の太陽」があることに、もっと驚かされました。

いつもながら、前情報もなく、たまたま訪れた太陽の塔、行動することで新しい発見があり感動が生まれます。

〈いしづち〉2025/1

令和7年1月発行

発行人 会長 尾藤淳一

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5 愛媛県建築士会館2F

TEL(089)945-6100 FAX(089)948-0061 <http://www.ehime-shikai.com>

印刷所 アマノ印刷株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員 長/大平 将司 副委員長/渡邊 道彦

編集委員/池川 佳代 河合 優志 西岡 亜有美 西森 勉